

AQUA-DORE PFAS浄水能力分析について

AQUA-DOREの浄水カートリッジにて、有機フッ素化合物（PFAS）の除去が可能か検証。

■分析項目

ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及び

ペルフルオロオクタン酸（PFOA）

■分析条件

銀添活性炭（40 g）に大阪市水道水を通水、7時間流水後の最終ろ過水（2 L）を取水

一般財団法人日本食品分析センターへ分析依頼

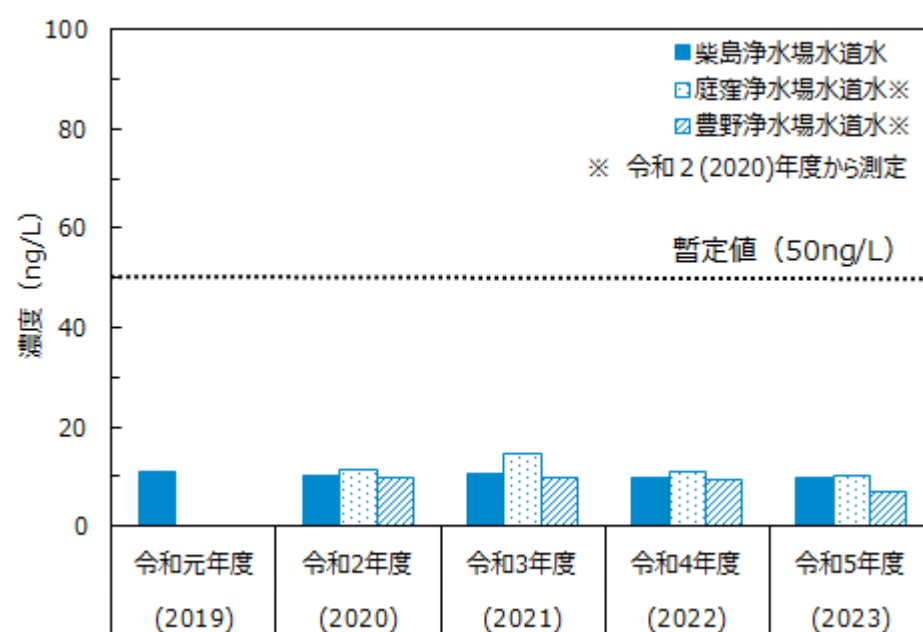
分析試験結果

分析試験項目	結果	定量下限	注	方法
ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	検出せず	0.000005 mg/L	1	固相抽出-液体クロマトグラフ-質量分析法

■結果

日本国内において、令和2年4月1日に「水質管理目標設定項目」として位置づけられ、暫定目標値は「PFOS及びPFOAの量の和として50 ng/L」となっている。

大阪市水道局による過去5年間のPFAS検出状況により、10ng/Lが水道水に含まれており検出下限値以下まで除去できていることが証明された。



大阪市水道局：3浄水場の水道水におけるPFOS及びPFOAの過去5年間の検出状況

AQUA-DORE浄水カートリッジの銀添活性炭は、1年間のご利用を想定し150gの大容量を充填しています。日本国内各地の水道水に含まれるPFASの濃度は様々であります。更に大容量の活性炭により、AQUA-DOREの浄水カートリッジでも十分な除去能力があることが証明されました。